

新编日本概况



王华伟 曹亚辉 编著

青岛海洋大学出版社

新编日本概况

王华伟 曹亚辉 编著

青岛海洋大学出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

新编日本概况 / 王华伟, 曹亚辉编著. — 青岛: 青岛海洋大学出版社, 1999. 10

ISBN 7 - 81067 - 105 - 7

I. 新... II. ①王... ②曹... III. 日本 - 概况
IV. K931. 3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (1999) 第 49999 号

*

青岛海洋大学出版社出版发行

(青岛市鱼山路 5 号 邮政编码 266003)

出版人: 刘宗寅

新华书店经销

山东电子工业印刷厂印刷

*

1999 年 12 月第 1 版

1999 年 12 月第 1 次印刷

开本: 850mm×1168mm 1/32 印张: 7. 125 字数: 177 千

印数 1—4000

定价: 11. 00 元

前 言

编著此书，在很大程度上是出于偶然。

几年前，我在日本留学时，我的忘年交的日本朋友铃木键之先生编写了一本以有志留学日本的中国人为对象的小册子《これだけは知ってほしい》（留日须知），并由我翻译成汉语。我的这位老朋友是位社会责任心很强的人，为了让每位即将赴日的中国人能够顺利愉快地度过留学生活，在我回国之际，托我在国内将这本小册子联系出版。当我回国后为出版留日须知的小册子联系出版时，恰逢本校成立了日语专业，各门课都面临教材建设问题。系领导得知此事后，便建议我们在这本小册子的基础上扩充内容，编写一本有关日本概况的教材。

说心里话，我们当初颇犹豫，因为尚无这方面的经验，深感能力有限。但我们还是接受下来，我们不愿失去一次锻炼自己的机会，也不愿让老朋友的一番苦心付诸东流。

自着手编写工作开始到现在已历时3个年头有余。这期间，我们多方面收集大量的新近资料，然后进行提炼、归纳、整理。近年来国内出版的介绍日本风情和日本人的风俗习惯等方面的书有不少，而且都是了解日本的很好的工具书，但是对日本历史和地理的介绍均太概略，不太适合作为概况教材。因此我们对材料的取舍方面考虑了这一点，加大了历史和地理的比重。因为我们不能脱离历史去考虑一个国家今天的一切，更不能忽略地理因素来

考虑一个国家的生活习惯、风土人情等。除了历史地理两个主要部分之外,对社会文化、风俗习惯等方面的内容也均有所涉及。另外在书后还以附表的形式列出了有关资料,以便在学习过程中查阅相关内容。

本书虽然是作为本校的教材而编写的,但从内容来看,亦可作为广大日语学习者了解日本的工具书来使用。

本书的出版得到青岛海洋大学教材建设委员会的赞助。在编写过程中得到了海洋大学东语系前任领导和现任领导的热情支持和关心;各位同事也给我们提出过宝贵意见;日本海外协力队日语教师武川泰启老师在百忙之中审阅了全部书稿。在此对给予我们帮助和支持的所有领导、老师和朋友一并表示衷心感谢。

由于编者水平有限,书中难免有不足或错误,恳请各位同仁和读者朋友批评指正。

编者

1999.8于青岛

目 次

第一章 地理	1
第一節 日本の国土	1
一 日本の位置.....	1
二 国土と人口.....	1
三 気候.....	2
第二節 日本の地域区分	3
一 九州地方.....	3
二 中国・四国地方.....	7
三 近畿地方.....	11
四 中部地方.....	14
五 関東地方.....	19
六 東北地方.....	22
七 北海道地方.....	24
第二章 歴史	27
第一節 原始時代	27
一 日本人の祖先.....	27
二 縄文文化の時代.....	27
第二節 古代	28
一 弥生時代.....	28
二 国土の統一.....	29
三 伝わる大陸の文化.....	31
四 律令制国家の形成.....	32
五 遣唐使と天平文化.....	34

六	貴族の政治と文化	35
七	武士のおこり	37
第三節	中世	38
一	武家政治の始まり	38
二	武家政治の移り変わり	42
三	幕藩体制の成立	45
四	幕藩体制の動揺	50
第四節	近代	52
一	明治維新	52
二	自由民権運動と立憲政治の始まり	55
三	中国・朝鮮に対する侵略戦争	56
四	日本資本主義の発達	59
五	明治時代の文化	60
第五節	第一世界大戦と日本	61
一	列強の対立と第一次世界大戦	61
二	日本をめぐる大戦後の世界	61
三	社会運動と政党政治	62
四	大正の文化	64
第六節	第二次世界大戦と日本	64
一	日本をおそう不景気	64
二	中国東北への侵略とファシズムの台頭	65
三	中国への侵略戦争と戦時体制の確立	67
四	第二次世界大戦と日本	68
第七節	第二次世界大戦後の日本	70
一	敗戦当初の日本	70
二	日本の復興と国際復帰	72
三	日本の経済高度成長	75
四	70年代以後の日本	76

第三章 政治体制	79
第一節 天皇.....	79
第二節 国会.....	79
第三節 内閣.....	80
第四節 裁判所.....	82
第五節 国家公務員.....	83
第六節 地方の政治.....	84
第七節 選挙.....	86
第八節 政党.....	88
第四章 社会・文化	90
第一節 日本と日本人.....	90
一 日本という国名.....	90
二 日本人.....	91
三 日本神話.....	91
四 日本人の自然観.....	92
五 日本人の勤労意識.....	93
六 日本人の娯楽観.....	95
七 日本人の美意識.....	96
八 日本人の死生観.....	97
九 日本人の名字.....	99
十 ふるさと.....	101
第二節 日本語とその特色.....	102
一 言葉・文字.....	102
二 日本人の話しぐせ.....	103
三 挨拶.....	106
第三節 家庭生活.....	108
一 暮らし.....	108

二	家庭	1 1 0
三	家族の風景	1 1 1
四	結婚の風景	1 1 2
五	高齢化社会における“老い”と家族	1 1 3
六	住居	1 1 4
七	入浴	1 1 6
八	家計	1 1 6
九	服装	1 1 8
十	買物	1 1 9
	第四節 食生活	1 2 0
一	食生活	1 2 0
二	飲食店	1 2 2
	第五節 社会生活	1 2 3
一	消費生活	1 2 3
二	貨幣・カード	1 2 5
三	社会保障制度	1 2 5
四	治安	1 2 7
五	観光地	1 2 9
六	公害問題	1 2 9
七	暮らしの中の時効	1 3 1
	第六節 公共施設	1 3 3
一	自動販売機	1 3 3
二	交通機関	1 3 4
三	郵便局	1 3 5
四	電話・FAX	1 3 6
五	金融機関	1 3 8
六	宿泊施設	1 3 9
七	医療機関・健康	1 4 0

八	税金の仕組み	141
九	文化施設	142
十	スポーツ	143
第七節	風俗習慣	144
一	国民の祝日	144
二	主な年中行事	145
三	お正月	146
四	お屠蘇	147
五	お年玉	148
六	大晦日と除夜の鐘	148
七	冠婚葬祭(一)	149
八	冠婚葬祭(二)	151
九	冠婚葬祭のマナー	152
十	人を紹介する時のマナー	155
十一	自己紹介のマナー	156
十二	会話の基本マナー	158
十三	テーブルマナー	159
十四	病気見舞いのマナー	160
第八節	娯楽・芸術	161
一	テレビ・ラジオ	161
二	公営ギャンブル	163
三	子供の遊び	164
四	マンガ	166
五	カラオケの歴史	169
六	伝統演劇	170
七	伝統芸術	172
第九節	宗教	173
一	日本の宗教	173

二 仏教の伝わり	175
三 古代日本のキリスト教	176
第十節 教育	177
一 日本の教育	177
二 寺小屋の歴史	178
注釈	180
単語表	187
付録	201
一 行政区画表	201
二 日本の主な山及び火山	203
三 日本の主な川	203
四 戦後の日本の総理大臣	204
五 日本人のノーベル賞受賞者	205
六 日本6大企業グループ	206
七 日本の県花・県鳥・県木	207
八 資格免許を持つ職業	208
九 幕府歴代将軍	209
十 歴代横綱一覧	210
十一 記念日・年中行事	212
主要参考文献	215

第一章 地理

第一節 日本の国土

一 日本の位置

日本はアジア大陸の東にある島国である。4 000 あまりの島からなっているが、特に大きい島は北から北海道・本州・四国・九州の四つである。

日本の東と南西には太平洋がある。アジア大陸と日本の間にはオホーツク海と日本海と東シナ海がある。西には朝鮮半島や中国大陸がある。また北にはサハリン、南には中国台湾がある。

二 国土と人口

日本は山が多い国である。国土の76%が山地で、平地は24%しかない。本州の中央部には3 000mに近い山が集まっている。その他の地方でも2 000mに近い山がたくさんある。だから、平野は狭く、川は流れが激しい。主な平野は関東平野・濃尾平野・石狩平野などである。

日本の近くには三陸沖の日本海溝、伊豆・小笠原海溝、南西諸島海溝がある。

日本の国土面積はおよそ38万km²で、中国の約1/26、アメリカの1/25、イギリスの1.5倍である。

1995年の日本の人口密度は1km²当たり337人である。バンングラ

デシュの836人や韓国の453人よりは低いが、オランダやベルギーなどとほぼ等しく、都市国家を除けば日本は世界有数の人口稠密国である。しかも国土の大部分は傾斜の急な山地で、人が住み経済活動を行うことの可能な可住地は国土のわずか21%にすぎない。そのためにオランダやベルギーのように人口が比較的均等に分布している国と違って、日本では人口分布が極めて不均等で国土の21%にすぎない狭い平地に人口の大部分が集中している。可住地の人口密度は1km²あたり1 600人を超え、高度な土地利用とあいまって、日本は世界一の高密度社会といえる。東京都の人口密度はおよそ5 400人である。

日本の総人口は1995年の国勢調査では12 557万人となり、世界で第8位である。

東京・名古屋・大阪・北九州を中心とする四大都市圏に人口が集まっている。人口百万を超える都市は東京都 23 区・横浜市・大阪市・名古屋市・京都市・神戸市・札幌市・北九州市・川崎市・福岡市である。大都市では住宅・交通・公害などいろいろな問題がある。

三 気候

日本は温帯にあるが、国土が南北に細長いため、南と北では気候が大変異なる。また、夏と冬では気温の差が大きく、夏は熱帯と同じくらい暑くなるところもある。

日本は四季がはっきり分かれている。また、梅雨があり、台風もくる。このように気候に変化があり複雑なのは、季節風の影響を強く受けるためである。季節風というのは毎年決まった時に吹く風である。日本では夏は太平洋側から温かい南東の季節風が吹き、冬は大陸から冷たい北西の季節風が吹く。

日本の気候は国土の中央にある山脈のため、太平洋側と日本

海側では非常に違う。太平洋側では夏は太平洋から吹いてくる季節風の影響で雨が多く、蒸し暑い日が続く。しかし、冬は乾いた風が吹き、晴れた日が多い。日本海側では、冬はシベリアから吹いてくる冷たい季節風で、雪がたくさん降る。また、夏は太平洋側ほど雨は降らないが、気温は太平洋側と同じくらい高くなる。

このように異なった日本各地の気候は人々の生活や産業に大きな影響を与えている。

第二節 日本の地域区分

一 九州地方

九州地方は福岡（福岡市）、大分（大分市）、佐賀（佐賀市）、長崎（長崎市）、宮崎（宮崎市）、鹿児島（鹿児島市）、沖縄（那覇市）の八つの県からなっている。

1. 工業

北九州市を中心とする北九州工業地帯は九州地方北部の工業地帯で、四大工業地帯の一つである。大陸からの鉄鉱石と筑豊炭田の石炭を背景に、1897年に作られた官営八幡製鉄所（現在の新日本製鉄）がこの地域の工業の始まりであった。製鉄をはじめ、金属・機械・化学などの大工場が洞海湾周辺にひしめいている。しかし、第二次世界大戦後、大陸とのつながりが途絶えたため、日本の産業の中での比重は低下し、さらに工業用水の不足、海水汚染、大気汚染などの公害、道路整備の遅れなどの難問を抱えている。

2. 農業

福岡県と佐賀県の南部にわたって広がる筑紫平野は九州一の

米所として知られている。特にその中の佐賀平野は米作の先進地とされてきた。農業機械化とイネの品種改良のため、佐賀平野の米の単位面積の収量は30年代に全国一となった。しかし、60年代から米の減反政策^{地2}によって、一部分の水田が転作または休耕しなければならなくなった。今では大豆、麦類などのほかレンコン用のはす栽培も行われている。

3. 有明海の干拓^{地1}

有明海の沿岸には広大な干拓地が古くから造成され、一面の水田地帯が展開している。

有明海は遠浅の海であり、筑後川をはじめ、菊池川などの河川が大量の土砂を運び込む上、潮の満ち干の差が日本最大の6mに達することもあって、干潮時にははるか沖合いまで広い干潟があらわれる。干拓地はこのような干潟の一部を堤防で囲み、配水して作られた。これらの有明海の干拓地でも筑紫平野と同じように、米の減反政策は大きな問題となっている。

4. 有明海のノリ養殖

有明海は現在、全国一のノリ養殖地となっている。養殖の行われる秋から春先までは航路などを除いて、ノリの養殖施設が海面を埋め尽くす。摘み取りの始まる初冬にはどこの沿岸漁村でも自動ノリすき機を備えた製造工場があわただしく操業を始める。しかし、近年は養殖施設があまりにも過密化したため、水流が妨げられ、病害の発生、消費量、価格などの問題がある。

5. シラス台地

九州の南部には火山灰が数メートルから数10mも積もってできた台地が続いている。このような台地をシラス台地という。シラス台地は狭くて、農業に適さないが、近年はダムや用水路ができ、野菜や果物などが作られるようになった。大雨が降ると、度々がけ崩れなどの災害が起こっている。

6. 主な都市

北九州市 福岡の北部にある重化学工業都市である。1963年、門司・小倉・八幡などの5市が合併してできた。現在7区あり、九州で最初の政令指定都市である。関門海峡から洞海湾にかけての海岸沿いに重化学工業の大工場が密集し、北九州工業地帯の中心になっている。

福岡市 福岡県北西部、博多湾にのぞむ同県の県庁所在地である。古くから大陸文化の入口として開けた。九州全体の政治・経済・文化の中心地となっている。港町博多を中心とした商業、城下町福岡を中心とした政治・文化都市という性格を持っている。

長崎市 同県の県庁所在地である。古くから国際都市として発達し、鎖国時代には日本でただ一つの貿易港として外来文化の移入口となった。産業の中心は造船業で、ほかに製鋼なども盛んである。長崎港は日本有数の商、漁港である。広島と共に原子爆弾の被爆地として知られている。

7. 名所・名物

- (1) 阿久根市：鹿児島県北西部の都市で、サツマイモ・ボンタン・ミカンなどの生産量が多い。海岸は景勝地として知られる。
- (2) 阿蘇山：九州の中央に大きく座を占める活火山であるが、南北 24km、東西 18km の世界一といわれるカルデラを持つ。
- (3) 奄美諸島：九州南方の太平洋上に連なる南西諸島中の群島。大島つむぎ、黒砂糖の特産物のほか、台風の多い地域として知られる。
- (4) 有明海：長崎・佐賀・福岡・熊本の4県に囲まれた湾状の海。干満の差（最大6m）が大きいことで知られる。

- (5) 指宿市：鹿児島県薩摩半島の南東端にある温泉都市である。温泉都市として発展し出したのは 1956 年に近代的なホテルができてからで、温泉は海辺の約 4m にわたって散在し、特に摺ヶ浜は「砂蒸し」で有名である。
- (6) 内之浦：鹿児島県南部にある町で、東京大学宇宙空間観測所があり、日本の第一号人工衛星「おおすみ」を打ち上げたことで有名である。ロケット基地の内之浦が観光地として知られる。
- (7) 熊本市：熊本県の県庁所在地で、現在は九州中部の農業地帯の中心的商業都市である。市内に熊本城や水前寺公園など多くの史跡・名所を持つ観光都市でもある。
- (8) 国分市：鹿児島県のほぼ中央部にある田園都市で、江戸時代からタバコの産地として知られ、現在も生産量が多い。
- (9) 小倉：福岡県北九州市内の一地区で、市の政治・文化・商業の一中心地である。八坂神社の祇園太鼓が有名である。
- (10) 西都市：宮崎県、一ツ瀬川流域にある都市で、西都原古墳群で知られる。
- (11) 戸畑：福岡県北九州市の一つの区である。若松との間の洞海湾にかかっている若戸大橋は有名である。
- (12) 長崎市：長崎県の県庁所在地で、史跡・名所に恵まれ、広島と共に原子爆弾の被爆地として知られ、出島、浦上天主堂、グラバー邸などの観光地が多く、観光客の訪れが絶えない。
- (13) 別府市：大分県中部にある温泉・観光都市で、豊富な温泉と気温・風景に恵まれ、旅館・保養所・療養所・別荘などが集まっている。